

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671500037		
法人名	社会福祉法人 未生会		
事業所名	グループホームちくりんえん		
所在地	京都府南丹市八木町諸畑後町14番地		
自己評価作成日	平成31年2月18日	評価結果市町村受理日	令和元年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=2671500037-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅漢町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成31年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周辺に多くの自然があり、四季を感じていただけます。同法人が運営する、軽費老人ホーム・認知症対応型デイサービス・ショートステイ・訪問介護ステーション・居宅事業所が併設されています。ちくりんえんのご利用者様は、認知症であっても、家庭的な環境や地域住民との交流をし、住み慣れた場所でその人らしく生活を送ります。また、入浴・排泄・食事など、残存機能を活かし自立した生活が送れるよう職員が黒子役となって、支援することを目的としています。利用者様に孤立感を抱かせない為に地域住民やご家族様との連携を密にし、運営委員様や行政との連携の中安心して滞在していただけるよう、総合的なサービスの提供にしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR八木駅より車で10分ほど田園風景が広がる道を行くと、社会福祉法人 未生会が運営する福祉・介護施設が見えてくる。軽費老人ホーム・デイサービス(認知症対応型)・訪問介護事業所などが併設されている。グループホーム「ちくりんえん」もグループの一員である。平成12年4月に、1ユニットのグループホームとして開設された。法人の理念である「帰家穩座」を大切に「安心して落ち着ける私の居場所」を提供するべく日々支援に努めている。「ちくりんえん」としては～生活共同体～と表し、入居者と職員が共に家庭的な生活環境の中で協力しながら暮らせるような支援を目指している。また、地域住民とお互いに支え合う関係作りを大切にしている。広々とした敷地に併設の施設や事業所が点在しているが、垣根がなく誰でも何時でも自由に入出入り出来るようになっている。地域住民との信頼関係から成り立っていると思われる、入居者は、地域住民・家族・職員などに温かく見守られて穏やかに過ごしている。明るい笑顔と歌声が聞かれる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	研修時に事業所の理念を学び、共有し実践している。	法人の理念と事業所の理念を、経営責任者・管理者・職員ともに理解し日々の支援につなげている。ただ、事業所の理念である～生活共同体～の文言が、馴染みにくいとの意見もあり、次年度から変更したいと、現在職員からやさしい文言を募集している所である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや交流会に参加したり、ボランティアを受け入れ、地域の一員として交流しています。	事業所の周囲には垣根がなく、地域住民は自由に入出入りしており、事業所と住民の間には「垣根」のない関係作りが出来ている。併設の軽費老人ホームのボランティア「大正琴サークル」が来所されて楽しいひと時を過ごす機会もある。また、地域の夏まつりや近在の介護施設の夏祭りに招かれたり、餅つきをしたり地域との交流が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして活動し、認知症の理解を深める活動をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での報告や話し合いで、事業の課題など提起していただき、改善に努めています。	会議には、行政の担当職員・地域包括支援センター職員・地域代表(2人)・家族代表・介護事業所職員等が出席している。事業所から、法人代表・管理者・職員が出席して、事業所の状況や行事活動など報告した後情報・意見交換を行っている。それぞれの立場で意見が出され、厳しい意見もあり事業所にとって貴重な機会になっている。	会議録の様式を統一化されて分かり易く工夫して頂きましたが、参加者での意見交換の話の内容が混同している、少々理解しがたくなっていると思えます。記録の方法を工夫して頂く事を提案致します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に市町村関係者や民生委員に入ってもらい、協力関係を築いている。	運営推進会議に、行政の担当者が出席し事業所の状況を理解し、アドバイス等も得ている。事業所も行政の方針を理解し、双方向で協力体制が築かれるように取り組んでいる。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止インストラクターを計画作成担当者が所持しており、常に研修を行い実践している。	「身体拘束をしないケアの実践」については、運営規程や重要事項説明書に「身体拘束廃止に向けての取り組み」として明確に示している。また、資格を持った職員が講師となって研修を行い実践に努めている。身体面だけでなく、声掛けや言葉遣いなどで入居者の行動を抑制しない様に留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止インストラクターを計画作成担当者が所持しており、常に研修を行い実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて行い、必要があれば活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と契約書を説明し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などでヒアリングを行い、機関紙などで報告している。	入居者からの要望等は日常生活の中で聞き取る様に努めている。家族等からは、来所時や家族会などでも聞き取る機会にしている。家族代表が運営推進会議に出席して、家族の立場からの意見を出して貰っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで聴取し反映している。	日常的な個別の支援方法等の意見や提案は、申し送り時などで話し合っている。申し送りでの内容は「申し送りノート」を活用し職員間で共有している。経営責任者と現場の管理者とがそれぞれの立場で協働しながら業務を遂行しており、職員の意見等も把握しながら透明性のある運営に努めている。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に給与水準と負担の少ない人員配置を心掛け、働きやすい環境にしている。両立支援（産前産後・介護）の規定も設け、H30年度は看護休暇を2名が取得。H29年産前産後休暇を1名取得（復帰は本人希望でグループホームささゆりの宿）。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修を月一回実施し、職員の希望する外部研修や、必要と思われる資格取得の支援など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ささゆりの宿や、しらかばとの交流会など、関連施設との交流を行っている。また、社協のだんないさんのイベントなどにも参加させていただいた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族様と面談。生活歴を鑑みて本人様の生活状況・生きがい・好きなものや嫌いなもの・趣味等を把握。利用開始後に反映できる様にする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の不安点・疑問点には迅速かつ明確に返答。施設での生活に関し不透明な点が無いよう、小さな事にもお伝えし、実践していく事で信頼関係を築いていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者様の状況や変化に五感を活かし変化や内容を把握。御家族様と連携しながら他のサービス利用を検討していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	疑似家族として馴染みの関係づくりに力をいれています。1人ひとりの「出来ること」「出来ないこと」を見極め支援の統一を図っていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお電話にて近況をお伝えしています。 今後は月末に御家族様にお手紙予定です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様にとって大切な場所・思い出の場所を把握し、その場所との関係性が途絶え無いように心掛け、御家族様の協力も得ている。(年末・年始・法要)	地域のお祭り等の行事に参加して、馴染みの人達に会う機会もある。系列の軽費老人ホームの入居者とも触れ合う機会があり馴染みの関係が出来てきている。大正琴サークルのボランティアが来所され、懐かしい歌の演奏を聞いたのち、お茶とお菓子で楽しいひと時を過ごし、ちくりんえんのみなさんからプレゼントを渡されるなど交流の機会を大切にしている。初詣や花見等季節のお出かけには、馴染の所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様の個性や能力を理解の中、日常生活を営んでいます。歌を歌ったり、ゲームをして快適に過ごして頂けるよう支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了された方にも電話にて近況を伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用前に御家族様より思いや意向をお聞きしています。ケース会議にてその人らしい生活が送れる様に模索しています。	初回面談で、本人や家族等から生活歴や心身状況・趣味・今後の生活の希望等を聞き取り記録している。医療関係者からも情報を得る事もある。入居後は、日常生活の中で「その人らしさ」を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に担当CMからの情報や御家族様よりの情報により「生きがい・楽しみ・好きだった事や嫌いな事・趣味等」をお聞きし日常生活に活かしています。		

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活をケース記録や申し送りノートにて把握。心身状態の確認に努めています。有する能力についてはアセスメントにて把握。日常生活で発揮できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者様の心身状態や有する能力等を把握。職員会議にてそれぞれ意見を出し合い介護計画を作成しています。	個別記録から情報をまとめて、カンファレンスを行いその結果を基に介護計画の見直しをしている。心身の状況に変化があれば、随時話し合いを持ち介護計画の見直しを行っており、現状に即した介護計画を作成している。家族等の意見や医療関係者からの意見も介護計画に反映させている。また、健康状態等や毎日の様子・家族等の面会などチェックシート(一覧表)にまとめ、分かり易く工夫して家族等にも送付している。受診の際にも持参して情報提供の一端としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況をケース記録や職員間の申し送りノートに記載。情報共有に努めています。記録にはペンの色分けをしてスタッフの見落としが無い様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族様の要望に応え、病院受診や他事業所での行事参加等、柔軟な支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スリーA(手遊び・リズム体操)・ハーモニカ演奏ボランティアを受け入れています。当法人内事業所の行事にも参加し、互いに交流を深めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時家族様にかかりつけ医を確認し、医療が受けられるように努めています。特に決まっていない場合、御家族様同意の上、当事業所訪問診療医に委ねています。	かかりつけ医の選択は、本人・家族等の希望を尊重している。特に、希望がない場合には事業所の訪問診療医をかかりつけ医にしている。医療機関との連携で24時間体制が整備されている。眼科など専門科の受診の場合は基本的に家族等に同行して貰っているが、必要に応じて職員が同行する場合もある。介護計画作成者が看護師でもあり、日常の健康管理が出来ている。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診医に指示をもらい適切な受診をしています。現在職員、看護師が常駐している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連携を強化している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	チームで取り組めるように、支援に取り組む準備をしている。	現在の所、終末期(看取り)の対応については検討中である。家族等や協力医療機関との話し合いで、事業所として取り組みたいとの思いはある。重度化・終末期共に「その人」にとって最適な選択肢を提供できるように取り組もうとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて救急対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策について、関係各所、関連施設と連携している。災害時のマニュアルなどもあり、避難訓練なども消防署の指導の下年回っている。	消防計画に基づき、併設施設合同で避難訓練を行っている。本年12月は「ちくりんえん」から出火した想定で、消防署の指導の下、入居者の避難誘導・通報手順・消火器の扱い方など実地訓練を実施している。AEDは現在の所設置していないが、今後設置の予定はある。備蓄用品は3日分揃えている。災害時の避難所として公的には挙げていないが、地域住民が来られたら受け入れる体制はある。愛犬も一緒に受け入れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室で、プライバシーの確保をしている。声掛けも人生の大先輩として対応をしています。	法人の理念にも「安心して落ち着ける居場所を提供する」と表明している通り、一人ひとりを敬い大切に支援している。声掛けや言葉遣い等にも配慮している。特に、排泄や入浴時には、プライドを損ねたり、羞恥心を抱かせないように心がけている。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において自己決定できるような支援を心がけています。おやつの選択・入浴日の変更・衣類や外出場所の意向等を確認しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活において、御利用者様1人ひとり身体状況に合わせて意向を確認しながら実践するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の御利用者様、朝・入浴後等化粧水を使っておられます。男性御利用者様は髭剃りの声掛け。2月に1回理美容に来てもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみの一つです。毎回厨房からの食事提供ではなく、週1回ちくりんえんにて食事づくりを取り入れています。生協で材料を購入。御利用者様と共に残存機能を発揮して頂き、食事を楽しんでいます。	食事は、楽しみと健康面からも大切であり、三食バランスのとれた献立になっている。週1回は、食材の買い物から調理まで「ちくりんえん」で行っている。入居者と職員が協働作業で楽しみながら行っている。リビングに続くキッチンから漂う煮炊きの匂いが食欲をそそっているようである。お寿司やカレー・すき焼きなど人気のメニューになっている。クリスマスには、ケーキを作って楽しんでいる。お餅つきも年末の楽しい行事になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の栄養バランスは他事業所の栄養士が対応しています。御利用者様の食事・水分摂取量は記録をとり、訪問診療医に指示をもらいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔洗浄をしています。ご自分で洗浄後スタッフによる支援もしています。		

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートにより排泄間隔が読み取れます。夜間帯は安眠を重きに思い排泄の声掛けは覚醒されている時のみとなっています。	個別に排泄パターンを把握し、適時声掛けや誘導を行ってトイレでの排泄につなげている。気分よく過ごされるように、一人ひとりの状況を考慮して下着を選択している。夜は安眠を大切に考えて下着にも配慮している。声掛けや誘導する場合には、土地の言葉で気分を和らげてトイレにお連れする場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間シートと毎日のチェック表で確認。運動量や水分・ヨーグルト提供。訪問医より緩下剤処方。御利用者様の排泄の状態により、調整の了解をDrより頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定。体調を把握して入浴の声掛けをしています。また排泄の状況により、急遽清潔保持の為シャワーや入浴に繋げている時もあります。	その日の体調や気分を考慮して入浴を決めている。ゆず湯やしょうぶ湯など季節を感じてもらう機会も設けており、入浴が楽しい時間になるように支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせソファやベットで休息をして頂いています。冬の間、エアコンや湯たんぽ・電気毛布にて安眠して頂けるよう支援をしています。夜間帯は22° 0° 3° 5°と安否確認をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や現状を理解し、服薬内容を確認。提供時には、御利用者様の目の前で1包化の表示(名前・日)を読み上げ、「ゴクン」と飲み込まれてからその場を離れる様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の様子(バックグラウンド)にて共に歌を歌ったり、掃除・洗濯干しや洗濯物の整理・食後の片づけ等、多々役割を持って下さいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	寒さとインフルエンザ流行で定期受診のみが多かったです。受診後、御家族様とお食事をされるのが楽しみのひとつとなっています。ポカポカ陽気時は足を延ばし外に出て散歩やドライブに・・と関わりを持つようになっています。	事業所の周囲は広々とした空間があり、梅や桜などの樹々が季節を楽しませてくれている。前庭には、色とりどりの花が咲きほこっており、日常的に散歩や外気浴・日光浴が楽しめる環境がある。時には、ドライブや外食なども楽しんでいる。「出かけますよー」の声掛けで「ちょっと待ってー。着替えるからー」と楽しげな声が返ってくるとのこと。	

京都府 グループホーム ちくりんえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様一人ひとり、御家族様より小口現金をお預かりしています。日常生活用品や御利用者様希望の品を購入します。他事業所に出張販売店が来る為、御自分で品選び・財布よりお支払いをされる為、見守り支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御利用者様の意思をお伺いしたうえで、希望・状況に応じてやり取りを支援しています。御家族様には月末に現金出納帳と領収書・生活状況報告をおこなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアーにはテーブルやソファを設置。食事を中心にレクリエーションや会話を楽しく頂いています。フロアー壁には行事時の思い出の写真や作品を飾り、ゆったりと過ごして頂けるような環境づくりをしています。	玄関前には、季節の花が咲き乱れ、玄関内も一般家庭の雰囲気や友人の家を訪れたような感じがある、リビングダイニングでは、テーブルを適宜配し、それぞれお気に入りの場所で過ごしている。体操をしたり、歌をうたったり退屈しないような気配りをしている。特に「座りばなし」にしない事を重視している。揃って大声で歌っている姿を見て、日頃の支援を垣間見る事ができた。不快になるような、音や臭いもなく穏やかな空間があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを2つに分け、ソファも2つ置き気の合う者同士が話をしたり、編み物をしたり・・・とゆっくりと過ごせる空間があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはそのひとらしく、馴染みの家具や寝台女性は鏡台等置き、薄化粧をされています。	馴染みの家具を使いやすいように配し、女性は女性らしい雰囲気の部屋作りが出来ている。窓からの光も適度な明るさをもたらし、落ち着いた趣がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に表札を付け、場所の確認と自立を促しています。廊下には手摺を設置。安全に生活が出来よう提供しています。		